

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する生徒を育む学校

<生徒に育みたい力>

1. 基礎学力を高めて自ら進路を切り開く「ちから」を育みます。
2. 社会体験を通じて、地域に貢献する「ちから」を育みます。
3. 命を大切にする「こころ」、人権を尊重する豊かな「こころ」を育みます。
4. 規範意識を身につけ自立する「ちから」を育みます。
5. 格差に挑み、希望と誇りを持てる「ちから」を育みます。

2 中期的目標

1. 学校改革の取り組み

(1) 平成27年度スタートしたES（エンパワーメントスクール）の確立と人権教育を中心とした教育実践を再構築する。

ア 30分授業「学びなおし」学習を含めた基礎学習の定着と10分学習の定着を図るとともにエンパワメントタイムの精選を図る。

イ 学校生活をサポートし卒業にしっかりつなげるようスクールソーシャルワーカーの配置や外部団体の連携による生徒支援のさらなる充実を進める。

ウ 「校訓」<一、礼節を重んぜよ 一、責任をもて 一、親切であれ>を学校教育のモットーとして生徒、保護者、教員、地元地域が一体となって学校改革、生徒支援の充実を図る。

エ 教室・廊下・トイレなどの学校教育環境の整備・充実を図る<毎月19日は～西成クリーン day～実施>

※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して満足している」項目、26年度2年生肯定感63%から27年度3年生肯定感75%をめざす

2. 進路を切り開く確かな学力の育成

(1) 西成高校の生徒実態を踏まえた、「めざす西成高校授業像」を確立し授業力向上を図り学力の定着をめざす。

ア NAC（西成一步前委員会）が中心となって、授業アンケートを活用した授業改善に積極的に取り組む。また、授業研究・授業改善に対する校内研修体制を確立する。また、26年度末に策定した「西成授業改善基本プラン」の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成26年度2年生肯定感66%から27年度3年生70%をめざす

(2) 進路指導年間計画を充実させ、チャレンジ（総合的な学習の時間）やLHR等を連動させてキャリア教育、人権教育、高大連携含めた計画を立案する

ア ES・総合学科への改編も含めて、以前より取り組んできたチャレンジでの取り組み（反貧困学習等）をさらに充実・発展させて産業社会と人間」の研究を進め3年間を見通した進路指導計画を確立する。

イ 地元中小企業家同友会・Cステップ等外部団体との連携及び人材を活用して、主体的に進路選択ができるよう様々な機会を設定する。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成26年度2年生肯定感70%から27年度3年生80%をめざす。また、学校斡旋就職決定率5年連続100%をめざす。

3. 規律・規範の確立と豊かな心の育成

(1) 生徒が主体的に規範意識やモラルや「命を大切にする心」の醸成を高める取り組みを組織的に推進する。

ア 「自分に厳しく、人にやさしく」！他人をおもいやり、公共のマナーやルールを守るなど規範意識の醸成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校はどんどんよくなっている」項目で平成26年度肯定感2年生55%から27年度3年生70%をめざす

(2) 学校行事や部活動を通じて、生徒間、生徒と教員間のつながりを深めて互いに信頼し尊重できる人間関係の構築を図る。

ア 生徒会活動、学校行事、部活動など生徒の自主的活動の取り組みを活性化させる。特に部活動は重点的に活性化させる。

※平成26年度部活動の入部率35%から平成27年度40%をめざす

(3) 人権教育、シチズンシップ教育を充実させる

ア 人権意識のさらなる向上を目的に、ES・総合学科への改編も含めて3年間を見通した人権教育推進計画を策定するとともにシチズンシップ教育を確立する。

※生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切にし、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成26年度肯定感2年生67%から27年度3年生80%をめざす

4. 地域に信頼される安全で安心な学校づくり

(1) 平成26年度地震や津波対策を含めた防災計画策定した。さらに地元住民や障がい者を含めた危機管理体制を確立する。

ア 平成26年度策定した地震や津波に対する行動マニュアルを基本に、生徒が自らの命を守る「主体的に行動する態度」を育成する防災教育を推進する。

(2) 生徒支援（教育相談）体制を一層充実させ、生徒・保護者に対する支援活動ができる体制を充実させる。

ア 西成高校の生徒・保護者の実態を踏まえ、課題を抱えた生徒や保護者に対して、スピード感をもって適時・適切な指導体制の確立と地元地域団体・福祉施設・他の行政機関・NPO法人などとの連携協同体制をつくる。

イ 毎月一回開催されている地元のケース会議や連絡協議会に今年度も継続して参加し、情報を共有しての支援を強化する

※生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成26年度2年生肯定感72%から平成27年度3年生75%をめざす

(3) 広報活動を活性化させ、地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する。

ア 中学校等への広報活動を充実するとともに、本校に対する要望や評価を把握して改善につなげる。

イ ホームページの更新スピードをアップさせ、中学生や保護者への情報発信を強化する。本校生徒や保護者に対しても学校メールマガジン等を充実させて情報発信を充実する。

エ 平成27年度第9回を迎える地元小中学校と連携した「西成教育フェスタ」をさらに充実させ西成区地域社会教育力向上をめざす。

※平成27年度学校教育自己診断で「西成高校はホームページで情報伝えている」保護者の肯定感70%をめざす。

5. 学校運営組織の再構築

(1) エンパワーメントスクール（総合学科）への改編を見据えた学校運営組織を再構築する

ア 校務分掌体制の再構築については、機動的な分掌業務推進を目的に4分掌を教務グループ、生徒指導グループ、進路指導グループ分掌に再編して下部組織として保健部・特別活動部・広報企画部・総合学科部4分掌体制に整えて実施する。また、役割分担・責任・権限を明確にする職務体制を確立する。

※1～5までを一体的に推進し、「中途退学・留年の防止」中退率10%未満をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 学校改革の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向けにおいて「西成高校の教育活動には、他校にはない特色がある」項目については、今年度 90%以上の肯定感があり、モジュール授業やエンパワメントタイムなど E S 確立に教員が一丸となって取り組んだ表れである。 ・トイレや廊下・階段などの教育環境の美化については、例年教員向け、生徒向けともに肯定感が 30%以下であったが、西成クリーン Day など設定して取り組んだ成果が徐々にあらわれ、50%以上の肯定感向上にはつながった。 ・「西成高校に入学して満足している（生徒）」では、H26 年度 2 年 63% から H27 年度 3 年 76%と肯定感が向上した。西成高校の粘り強い寄り添う教育の成果と考える。 <p>2. 進路を切り開く確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 学期の授業アンケート結果や西成授業改善プランを基本に 10 月から 11 月に教員相互見学週間や他校への見学を促し研鑽を高めた結果、生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成 26 年度 2 年肯定感 63%から平成 27 年度 3 年 69%に上昇した。 ・チャレンジ（総合的な学習）時間や LHR の充実と地元地域はじめ、外部団体との連携強化の結果、生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成 26 年度 2 年肯定感 70%から平成 27 年度 3 年 81%に達した。 <p>3. 規律・規範の確立と豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員全体での登下校時の交通安全指導、生徒会・部活動部員による早朝挨拶運動により、交通マナーは向上した。生徒向け学校教育自己診断における「西成高校はどんどんよくなっている」項目を具体的指導成果を図ることを目的に今年度は「西成高校に入学して生活習慣はよくなっている」と変更した。結果 1 年 49% 2 年 56% 3 年 60%と学年進行に沿って向上している。 ・ユニバーサルデザインと人権教育の充実と教員間外部機関との連携の結果から生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切に、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成 26 年度 2 年肯定感 72%から 27 年 3 年 74%と向上したが目標には達しなかった。 <p>4. 地域に信頼される安全で安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の一元化、となりカフェ等の外部団体との連携強化及び迅速な課題や支援対応によって生徒相談体制が充実した結果、生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成 26 年度 2 年肯定感 72%から 27 年度 3 年 74%と少し向上した。 	<p>第 1 回（6/12）</p> <p>○H27 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営計画が「エンパワメントスクール」への改編に沿った内容であり、それぞれの部署で計画案に沿って一丸となって取り組んでほしい。 ・これまでの西成高校での指導実践に加えて、今まで以上に地元地域との連携と教育委員会と連携を強化して生徒のため頑張っていたきたい。 <p>○生徒の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・E S 入学生（42 期生）新入生アンケート（生徒実態の背景）から、例年以上に課題の多い生徒の入学がうかがえるが、地域や出身中学校と連携を深めて支援してほしい。また、地元中学校や地域団体も応援する。 ・校長からの報告から、5 月時点での E S 入学生（42 期生）の遅刻や欠席数が例年より半減していることを受け止め、よりわかりやすい授業をめざして中退防止につなげてほしい。 ・39 期生（27 年 3 月卒業）の進路状況は 7 割就職で例年と変わらない。また、40 期生もほぼ同様の数値になるとのことだが、5 年連続学校幹旋就職率 100%めざしてほしい。 ・十分にミスマッチが無いように指導されているが、せっかく就職した生徒が仕事を辞めてしまうケースがあるようだ。多忙の中で難しいけれども追跡調査など実施していただき改善につとめてほしい。 <p>第 2 回（11/13）</p> <p>○今年度の学校の取組みについての進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点進路状況、学校幹旋内定状況は内定者 41 名（66%）を受け、さらに粘り強く教員一丸で取り組んでいただいて目標を達成してほしい。 <p>○1 年生の学校生活状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 学期で頑張っている生徒も、やや息切れしているとのことだが、授業内でのグループワーク等の取組や「文化祭」の行事にも積極的に参加しているとのことには、たいへんうれしく思う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生方が協議会に参加していただいているが、このような協議会は見ることがない。素晴らしいことなので継続していただきたい。また、これを機会として積極的に校長へ意見をだしてほしい。 ・生徒が落ち着いて学校生活を送っているように見える。これまでの西成高校の先生方の取組に心から感謝したい。 <p>第 3 回（1/22）</p> <p>○今年度の学校の取組みについての報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標となっている学校教育自己診断の報告から経営計画についても概ね目標が達成されていることに加えて、授業見学したが非常に落ち着いている。また、校長より報告にあったように、欠席数・遅刻数の減少は、先生方の授業力向上によることと思われるので、引き続き「わかる授業」を目標にさらなる研鑽を図られたい。 <p>○進路指導の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/22 現在で、学校幹旋就職希望者決定は 94%、あと 2 名で目標の 5 年連続 100% 達成されることは、教職員一丸での成果であるので、引き続き粘り強くご指導願いたい。また、フリーター数の減少へさらなる指導をお願いしたい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下やトイレ等の掲示物がすばらしいので、大学や中学校においても参考にさせてもらっている。 ・次年度の「教育フェスタ」の広報活動は、西成区役所や青少年指導員等外部団体との連携を深めれば、観客増は可能である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学校改革の取り組み	<p>(1) 平成 27 年度改編したエンパワーメントスクールへの充実と人権教育を中心にした学校づくりを再構築する。 ア基礎学習の定着と自学自習学習の確立を目的にカリキュラム充実を図る。 イ SSW の配置など生徒支援の充実を進める。 ウ「校訓」をモットーとして「命の教育」「寄り添う教育」を推進し、生徒支援充実を図るとともに導入した「新制服」を契機に生徒指導・進路指導等の充実を図る。 エ校内環境の充実</p>	<p>ア、イ 平成 25 年度校内 PT を総合学科部に分掌化させて改編準備に取り組んできた。さらに本年度は平成 27 年度改編に向けて、教育委員会 PT と共同して、予算編成・カリキュラム編成・施設のリフォーム等具体的準備を行う。 ウ、 学校行事での入学式などの式典や各学期の始業式などで折に触れ生徒・保護者・地域の方を始め、ホームページなどで発信する。平成 25 年度より新制服検討委員会を立ち上げ平成 27 年度入学生より新制服を導入した。これを契機に、「着こなし指導」「マナー指導」等含めた実践的な生徒指導・キャリア教育の充実を図る。 エ、平成 26 年度後期から実施した～西成クリーン day～の実施と具体的整備に向けた教育委員会と協議を継続する</p>	<p>ア、イ生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して満足している」項目、26 年度 2 年生肯定感 63%から 27 年度 3 年生肯定感 75%をめざす ウ、 教員向け学校教育自己診断における「校長は自らの教育理念や学校運営について考え方を明らかにしている」平成 26 年度肯定感 68%を平成 27 年度 75%めざす。 エ 平成 27 年度 3 年生に対して生徒向け学校教育自己診断における「西成高校に入学して満足している」項目肯定感 75%をめざす。</p>	<p>ア、イモジュール授業や総合的な学習の時間の内容等 E S 3 校や委員会との連携により、よりわかりやすい授業研究が進んでいる。また、となりカフェスタッフも参加しての生徒支援委員会の充実や SSW や SC を確実に活用した。 *27 年度 3 年生肯定感 76%○ ウ、 始業式・終業式では、生徒、教職員による「校歌斉唱」を導入して自尊心の涵養に努めた。その他 HP 刷新と発信回数の増加やモニターの活用にも努めた。教員の生徒への指導時間確保を目的に年度当初から「職員会議」の回数を減じたが、情報の共有が不十分で途中より形式を改めた。 *27 年度教員の肯定感 67%△ エ、今年度夏に福祉実習教室の整備工事が完了し、年度末には、各学年教室前廊下の壁面の塗装を計画している。トイレについては、予算措置がなされないが、西成クリーン day の定着や工夫で部分改修等不十分だが、一定の環境は保たれている。 *27 年度 3 年肯定感 76%○</p>
進路を切り開く確かな学力の育成	<p>(1) 「めざす西成高校授業像」を確立し授業力向上を図る。 ア授業アンケートを活用した授業改善の推進と「西成授業基本改善プラン」をもとに授業力向上を図る。 (2) キャリア教育、人権教育等総合的な進路計画を立案する アこれまでのチャレンジ等の取り組みをさらに充実させて「産業社会と人間」の研究も含めた進路指導計画を策定する。 イ 外部団体との連携及び人材を活用して、主体的に進路選択ができるよう様々な機会を設定する。</p>	<p>(1) ア、6 月と 11 月に授業アンケートを実施しアンケート結果をもとに授業改善を進める。また、NAC において平成 26 年度末に策定した「西成授業基本改善プラン」をもとにさらに検討を進め授業力向上を図る。 (2) ア、校内改編 PT の総合学科部や NAC での検討を進めるとともに、他府県の先進的な取り組み校への視察を行い、参考プランの研究、試行等を行い平成 29 年度末（全学年 ES）までの進路指導計画の検討に着手する イ C ステップとの連携による、年間通じての自立支援コース生や配慮の要する生徒のインターシップや中小企業家同友会からのキャリア教育支援として、各企業の代表者の方を招いての講演や交流会の開催等行い連携を強化する。</p>	<p>(1) ア、生徒向け学校教育自己診断における「授業内容はよくわかる」項目で平成 26 年度 2 年生肯定感 66%から 27 年度 3 年生 70%をめざす (2) アイ生徒向け学校教育自己診断における「進路指導についてきめ細かい指導を行っている」項目で平成 26 年度 2 年生肯定感 70%から 27 年度 3 年生 80%をめざす。また、学校幹旋就職決定率を 5 年連続 100%をめざす。</p>	<p>(1) ア、第 1 回は 6 月に実施、2 回は 1 月に実施予定をしている。アンケート結果と授業見学実施して授業改善を進める。また、「西成授業基本改善プラン」の充実や改定を NAC での検討を指示した。*27 年度 3 年生肯定感 69%△ (2) アイ、総合学科部・NAC・進路指導部各部署での計画検討及び研究が開始された。また、先進的な取組視察として、都立高校と神奈川県私学の対象として実施するとともに、職員会議で報告がなされた。C ステップ・地元地域団体や A ワークとの交流をはじめ、連携強化が図ることができた。また、E S 1 期生（42 期生）への中小企業家同友会との支援も計画することができた。 *27 年度 3 年生 81%◎ *幹旋就職決定率を 5 年連続 100%達成 ◎</p>
規律・規範の確立と豊かな心の育成	<p>(1) 規範意識やモラルの醸成を高める取り組みを推進する。 ア 公共のマナールールを守るなど規範意識の醸成を図る。 (2) 学校行事や部活動を通じて互いに信頼し尊重できる人間関係構築を図る。 ア 生徒会活動、学校行事、部活動など活性化させる。 (3) 人権教育、シチズンシップ教育を充実させる。 ア 人権意識向上を目的に、総合学科への改編も含めて、3 年間を見通した人権教育、シチズン教育を推進する。</p>	<p>(1) ア 教員による毎朝の正門での登校・挨拶指導に加えて、生徒会や部活動部員による「挨拶運動」及び「地域清掃活動」を実施する。 (2) ア 部活動紹介、部活動体験会の充実や「西成教育フェスタ」での地元中学校招いての新種目を含めた大会を開催する。また、HR 宿泊合宿の検討や校内合宿を推進する。 (3) ア 人権教育推進委員会を中心に、これまでの西成高校人権教育の実践を基盤に、総合学科部・学年・進路指導部との連携を深めて人権教育計画を策定する。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「西成高校はどんどんよくなっている」項目で平成 26 年度肯定感 2 年生 55%から 27 年度 3 年生 70%をめざす (2) ア 平成 26 年度部活動の入部率 35%から平成 27 年度 40%をめざす (3) ア 生徒向け学校教育自己診断における「西成高校では、生命を大切にし、人権を尊重するための学習が充分に行われている」項目で平成 26 年度肯定感 2 年生 67%から 27 年度 3 年生 80%をめざす</p>	<p>(1) ア 教員による毎朝の正門での交通安全・挨拶指導及び生徒会や部活動部員による「挨拶運動」の実施により校内外での挨拶する生徒が増えた。また、地元小学校や西成警察との連携による取組みが実施され社会貢献体験ができ、自尊心高揚につながった。 *生徒向け学校教育自己診断における「西成高校はどんどんよくなっている」項目を生徒指導の具体的指標として「西成高校に入学して生活習慣はよくなっている」と項目変更した。結果 27 年度 3 年生 60%となったので、より一層の具体的指導の充実が求められる △ (2) ア 平成 26 年度部活動の入部率 35%から平成 27 年度 40%をめざして、放課後の会議を少なくしたり、指導時間確保に努めたり、生徒会が積極的に勧誘運動に努め、一時は 38%と迫ったが達成出来なかった。△ (3) ア、人権教育推進委員会を中心に基本的人権教育の確認と「これからの人権教育」の研究や西成高校人権教育のさらなる充実を目的に教員対象の校内研修を実施して研鑽を図った。 *27 年度 3 年生 74%にとどまったので、外部団体との連携強化もふくめて検討する。 △</p>

府立西成高等学校

<p>地域に信頼される安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 地震や津波対策を含めた防災計画の精選、危機管理体制を検証する。 ア 地震や津波に対する新たな行動マニュアルを検討する。 (2) 生徒支援(教育相談)体制を充実させる。 ア 課題を抱えた生徒や保護者に対して、適時・適切な指導体制の確立と外部団体等との連携協働体制をつくる。 イ ケース会議や連絡協議会に参加し、支援を強化する (3) 広報活動を活性化させ、信頼される学校づくりを推進する。 ア 中学校等への広報活動を充実させる。 イ 地元中学校との連絡協議会の開催を継続し、連携を深める。 ウ ホームページの更新スピードをアップさせ、情報発信を強化する。 エ 第9回「西成教育フェスタ」を充実させ西成区地域社会教育力向上をめざす</p>	<p>(1) ア平成26年度策定した地震及び津波を含む防災計画と行動マニュアルに地域住民や障がい者をも対象とした内容検討と避難訓練を策定する。 (2) アイ生徒支援委員会に各学年や各委員会からの情報を集中一元化させ適時・適切に対応する。また、配置予定のSSWの確立と情報の共有や「となりカフェ」等の外部団体等の連携強化を推進する。 (3) アイ 入学前・各学期のテスト期間や長期休暇中の機会に中学校訪問の実施及び連絡協議会を開催する。 ウ ホームページ最低週1回の更新をめざす。また、発信件数増の定着とタイムリーな学校メールマガジンの発信をめざす。 エ 第9回「西成教育フェスタ」の参加団体(幼・小)招致活動を年度当初より推進して、充実を図る。また、次年度第10回教育フェスタを記念行事として準備を進めてゆく。</p>	<p>(1) ア(2) アイ 生徒向け学校教育自己診断における「安心して西成高校に通い、安全な学校生活を送っている」項目で平成26年度2年生肯定感72%から平成27年度3年生75%をめざす。 (3) ア 中学訪問件数年間のべ300件をめざす。 イ、27年度末に地元中学校約20校に対して広報活動や本校の取り組みについてのアンケート調査を行い、具体的広報活動や取り組みを改善する。 ウ 学校教育自己診断で「西成高校はホームページで情報伝えている」保護者の肯定感70%をめざす。 エ 第9回教育フェスタ観客者によるアンケート肯定感100%をめざす。</p>	<p>(1) ア(2) アイ 地震及び津波を含む避難訓練は、校内での実施にとどまったが、8月に防災計画や行動マニュアルの精選を目的に、先進的取組校への視察を実施した。この情報を参考して、地域の方々と障がい者を含む避難訓練実施へつなげたい。SSWの活用と「となりカフェ」等の外部団体等の連携強化を図るべく生徒支援委員会への参加をお願いして、情報の共有が可能となった。今後は、より迅速かつ十分な対応ができるよう検討を継続する。 *平成27年度3年生72% △ (3) アイ、中学校訪問件数は、出身中学校数の増加もあって、年間のべ370件を数えた。中学校からの情報は、より丁寧な指導・支援に欠かせない情報であるので次年度も確実に実施したい。年度末には合格者の出身中学校へは、全教員で訪問を実施する予定である。その際、今年度は地元20校に限らず広報や本校の取組についてアンケート調査を実施する予定である。 *中学校訪問数300→370 ○ ウ、本校のホームページは、刷新されてより情報が得やすくなったと聞いている。また、迅速的に更新ができるようになった。その他、今年度から設置したモニター(2台)から、行事や部活動の取組など毎日更新して発信している。 *保護者の肯定感50% △ エ第9回「西成教育フェスタ」の参加団体の誘致活動を行ったが、参加までには至らなかったが、新しく女子バレーボール大会の実施や傘下団体全員での取組発表を行った。また、第10回に向けて準備委員会にて検討を始めた。 *アンケート肯定感100% ◎</p>
<p>学校運営組織の再構築</p>	<p>(1) エンパワーメントスクール(総合学科)への改編を見据えた学校運営組織を再構築する ア 校務分掌体制の再構築及び責任・権限を明確にする職務体制を確立するとともに平成29年度末校内組織体制を検討する。</p>	<p>(1) ア平成25年度末に再構築させた組織体制について、26年年度に再検討して再編成した。さらに、29年度末を見据えた校内組織体制の検討を27年度当初より具体的に開始する。</p>	<p>※1～5までを一体的に推進し、「中途退学・留年の防止」中退率10%未満をめざす。</p>	<p>(1) ア 生徒が安心して学校生活を送れるよう、授業・生徒指導・進路指導等のさらなる充実と保護者・地域との連携強化を図りながら、校内組織体制の構築の検討を推進する。 *※1～5までを一体的に推進し、「中途退学・留年の防止」中退率10%未満の可能性は大である ○</p>